

## 放課後等デイサービスアスラボさばえ支援プログラム

アスラボさばえでは、お子さまが将来、日常生活や社会生活を自立して円滑に営めるようにすることを目指し、本人支援の5領域（「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」）の視点等を踏まえ、下記の支援方針に沿ったアセスメントに基づき、5領域の視点を網羅した総合的な支援を行います。

### 【方針】

#### 会話を通して自己理解を深める支援

主な領域【人間関係・社会性】

- 会話を通じて、社会性の発達に重要な、自分の気持ちや考えを整理し、他者に伝えるスキルを身につける。
- 自分と他者との関係性を理解することで、対人スキルや協調性を育てる。

---

補助的な領域【認知・行動】

- 職員との面談を通し、自己理解を深める。思考を整理し、自己の感情や行動を振り返る機会を設けることでメタ認知力が高まるよう支援する。
- 面談でじっくり話すことで、自己の行動や感情の特性を理解し、それに基づいた行動調整を行うことが出来るよう支援する。

#### 読み書き支援

主な領域【認知・行動】【言語・コミュニケーション】【運動・感覚】

- 文字の識別・理解・処理をスムーズに行えることを目的に聴覚法などの訓練に取り組む。
- 読むことに時間がかかる場合や書くことに時間がかかる場合、形や音韻の認識、まとまりとしての単語の認識ができていないか、どこに困難さがみられるか、丁寧な聞き取りのもとお子様に合った支援を行う。
- 短い文章を音読し、その中に出てくる言葉の意味を会話や短文づくりなどを通じて理解を深め、語彙の量と質を増やす。

## 学習支援

### 主な領域【認知・行動】【言語・コミュニケーション】【運動・感覚】

- 取り組み方を職員と一緒に考えることで本人にとって一番取り組み易い方法を見つけられるよう支援する。
- 自分で決めた方法で取り組むことで主体的に学習に取り組む姿勢が身につくよう支援を行う。
- 漢字や熟語の意味を理解し、使いこなすことが出来るように支援する。
- 漢字が覚えづらい場合は、パーツを声に出しながら覚える方法や熟語として覚える方法など、特性に合わせて本人が取り組み易い方法を見つけることが出来るよう支援を行う。
- 語彙を増やすことで、自分の考えや気持ちを正しく相手に伝えることが出来るようになり、コミュニケーション能力を高められるよう支援する。
- 英単語を覚える方法としてフォニックスに取り組むことで、音から文字がイメージできるように支援を行う。
- 数を量感でイメージできるようになるための支援を行う。
- 算数の文章題は、言葉を図や絵で表したり、図や絵を見て自分で文章題を作ったりすることで、数量を表す式のイメージができるようにする。

---

### 補助的な領域【人間関係・社会性】

- 語彙を増やすことで、自分の考えや気持ちを正しく相手に伝えることが出来るようになり、人間関係を円滑に行うことが出来るように支援する。

## 【プログラムの参考例】

### 工作を通じた支援

---

#### 主な領域【運動・感覚】

- イメージしたものを形にすることや、道具を使い細かい作業を行うことで身体の動きを調整する力や手指の巧緻性を養う。
- 

#### 主な領域【認知・行動】【言語・コミュニケーション】

- 作業手順を理解し段取りを組みながら作業をすることで認知・行動のスキルを身につける。
- 作品のイメージを他者に伝えることで言語・コミュニケーションの力をつける。

### 理科実験

#### 主な領域【認知・行動】

- 観察、推論、結果の考察などを行う過程で、子どもが「なぜ?」「どうなる?」を考えさせることで、自然現象や社会現象に問題意識を持つきっかけを提供し、探究心を育み問題解決能力の成長を促すように支援する。
- 

#### 補助的な領域【健康・生活】

- 実験を通じて生活に役立つ知識（自然現象や科学的なルール）を学び、日常生活に応用できる力を身につけていく。
- 

### 感覚統合のあそび

#### 主な領域【運動・感覚】

- 子どもの触覚、前庭感覚（バランス感覚）、固有受容感覚（体の位置や動きの感覚）を刺激し、感覚の処理や統合を促すことを目的とする。
  - 活動を通じて、身体の動きや感覚を調整する力を養う。
- 

#### 補助的な領域【人間関係・社会性】【言語・コミュニケーション】

- 他児やスタッフと一緒に集団遊びをとおして、協力することやルールなどを体験す

- ることで人間関係・社会性を身につける。
- 遊びを通し、他児との適切なコミュニケーションを学ぶ。

## 言葉遊び

主な領域【言語・コミュニケーション】【認知・行動】

- 語彙の獲得を促し言語理解力や表現力を高めコミュニケーション能力向上を目指す。
  - 言葉あそびは、思考力や記憶力、創造力を刺激し認知的スキルを育む。
- 

補助的な領域【人間関係・社会性】

- 集団活動での言葉あそびは、他児とのやり取りやルール共有また、協力を通じて、社会性の発達を支援する。

## 手先や脳を使う活動（パズル・切り絵・写し絵・折り紙等）

主な領域【運動・感覚】

- 細かい作業をとおして手先の器用さや身体の動きの調整を養う。
  - 写し絵を行うことで指先の力加減や動かし方を調整する力を養う。線からはみ出ないようにするため集中力も養う。
  - 切り絵はハサミの使い方と、ハサミを持っていない手の使い方を協調させるスキルが必要となる活動で運動と感覚の力を養う。
  - 折り紙は手指の巧緻性を養う。
- 

補助的な領域【言語・コミュニケーション】【認知・行動】

- 折り紙制作では折り方の手順を見てどこをどのように織り上げるかイメージする認知力を育む。
- 他者に折り方を教える活動をとおして、相手にわかりやすく説明する語彙力とコミュニケーション能力を育む。
- パズルは、二次元把握や三次元把握の力が必要となりイメージをする力を育む。

## 思考力を鍛える遊び（ボードゲーム・カードゲーム等）

主な領域【言語・コミュニケーション】【認知・行動】

- ボードゲームやカードゲームで思考力やコミュニケーション能力を育む。
- ルールのある遊びをとおして、社会性や人間関係を学べるよう支援する。